研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 5 年 5 月 2 9 日現在

機関番号: 32686

研究種目: 新学術領域研究(研究領域提案型)

研究期間: 2017~2021 課題番号: 17H06346

研究課題名(和文)顔と身体表現の比較現象学

研究課題名(英文)comparative phenomenology of face and corporeal expression

研究代表者

河野 哲也 (KONO, Tetsuya)

立教大学・文学部・教授

研究者番号:60384715

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 42,510,000円

研究成果の概要(和文):本研究は「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築:多文化をつなぐ顔と身体表現」という新学術領域研究における計画研究「顔と身体表現の比較現象学」を担当した。顔や身体表現を文化差や通文化性、あるいは異文化理解の観点から学際的に調査し、新たな学問領域として立ち上げる哲学的・理論的な基礎づけを行なった。本計画班が中心となり、「顔身体学」の理論基盤を体系化するための『顔身体ハンドブック』(東大出版会)を出版し、Philosophy and Cultural Embodimentという国際機関紙を発行した。身体性に関する研究倫理基準を作り、顔身体カフェというアウトリーチ活動も積極的に行なった。

研究成果の学術的意義や社会的意義本研究は、顔身体学の基礎を担う理論的研究として新領域の構築に貢献し、領域全体の導入に役立つ『顔身体学ハンドブック』、超領域的な研究論文を掲載するための国際雑誌Philosophy and Cultural Embodimentを刊行した。また身体性についての研究倫理の基準と教育プログラムを作成した。その結果として、最終評価として本新領域はA+の評価を獲得した。本計画班は、哲学と倫理学においては、スポーツと対話場面に間身体的コミュニケーションを独自開発したアプリケーションを使ったデジタル人文学的研究、および、身体性をめぐる偏見や差別を現象学的に考察した研究を学会発表や書籍、論文として公開した。

研究成果の概要(英文): This research "Comparative Phenomenology of Face and Body Expression" was conducted as part of the planned research project in the new academic field of "Face-Body Studies n in Transcultural Situations: Faces and Body Expression connecting Multiple Cultures. We conducted an interdisciplinary study of faces and body expressions from the viewpoints of cultural difference, transculturality, and cross-cultural understanding, and provided the philosophical and theoretical foundations for establishing this as a new academic field. The project team took the lead in publishing "Handbook of Face Body Studies" (University of Tokyo Press) to systematize the theoretical foundation of "Face-Body Studies," and published an international journal called Philosophy and Cultural Embodiment. We created ethical standards for research on corporeality, and actively conducted outreach activities called "Face-Body Cafe".

研究分野: 哲学、倫理学

キーワード: 顔身体学 比較現象学 文学 顔身体カフェ トランスカルチャー 身体性認知 文化的身体性 顔身体の倫理 デジタル人

顔身体カフェ

1.研究開始当初の背景

本研究は、「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築:多文化をつなぐ顔と身体表現」という新学術領域研究における研究項目 CO1 計画研究「顔と身体表現の比較現象学」を担当した。顔や身体表現を文化差や通文化性、あるいは異文化理解の観点から学際的に調べ、新たな学問領域として立ち上げるという新学術領域研究全体における哲学的・理論的な基礎を担った。本領域研究は、私たちの身体性、とくに対人関係や社会に関わる身体の振る舞いを意識化し、それぞれの文化で「当たり前」とされてきた身体のあり方を、トランスカルチャー状況下にある現代社会において再考する目的を持っている。こうした領域研究の目的にとって、現象学はとくに重要な理論的貢献ができる。現象学ではフッサール以来、身体性を重要なテーマとしてきたが、とくにサルトル、メルロ=ポンティといったフランス現象学の流れの中で現象学的身体論は大きく展開し、またレヴィナスは、顔という存在の独特の倫理性を自己の哲学の中核においた。

だが、これらの古典的な現象学においては、身体主体がすでに自己身体に取り入れている文化 社会的制度をどのように意識化して解釈し、それをどのように利用あるいは拒否し、どのように 変容させるかについての具体的な記述はなされていなかった。ここには、現象学の創始者たちが 西洋人の男性ばかりであり、自分の身につけた文化社会的制度が自分の生活する社会の規範と 齟齬を起こすことが少なかったという無自覚的な観点の偏りが影響している。こうした状況に 対する反省に立ち、北欧や北米を中心として現象学の観点から女性の身体性を分析するフェミ ニズム現象学が興隆している。ここでは、女性にとって抑圧的な文化社会制度をただ政治的に批 判するだけではなく、身体的主体として女性がそれらの制度をどのように生き、どのように解釈 し、それをどのように抵抗し、また変容させているかの具体的な分析がなされている。本研究で は、この新しい現象学の動向をさらに二つの方向に延長することを試みる。ひとつは、北米や北 欧の現象学的身体論にいまだ欠けている文化比較的観点である。文化社会制度の違いにより、社 会文化的セッティングにおいてジェンダーが具体的にどのような過程で身体表現や表情を形成 していくのか、あるいは同じ社会制度がエスニック・グループの違いによりどのように身体的に 解釈されるのかといった身体の比較現象学はいまだ開始されていない。二つ目は、身体を皮膚の 内部に前提せずに、身体の延長物であり身体表現の加工行為としての化粧、被服、理容、入れ墨 などに注目し、それらの加工が他者との社会的関係をどう変化させ、当人はそれをどのように利 用しているかについての研究を行った。

これまで、報告者らはともに現象学的身体論を基礎とする研究を推進し、現象学関係の学会を通じて交流してきた。河野は、平成 24~28 年度科研費基盤研究 (A)「知のエコロジカル・ターン」や平成 28~30 年度挑戦的萌芽研究「新しい東洋的身心論とエコロジカル・エンボディメント理論の国際発信」などを得て、『知の生態学的転回』(2013)、『境界の現象学』(2014)、『現象学的身体論と特別支援教育』(2015)などの現象学的身体論に関わる研究を発表してきた。小手川は、平成 26~28 年度科研費若手研究 (B)「フランス現象学の新局面とその展開可能性」や平成 28~30 年度基盤研究(B)「北欧現象学者との共同研究に基づく人間の傷つきやすさと有限性の現象学的研究」を得て、『甦るレヴィナス』(2015)、「「女性的な」身体性と「男性的な」身体性」(2016)などの研究を発表してきた。

2.研究の目的

フッサールにはじまる現象学的立場から、身体表現がどのように文化社会的制度を取り込んでいき、それがどのように個々人の間主観的関係を導くのか、身体主体がすでに自己身体に取り入

れてもいる文化社会的制度をどのように意識して解釈し、どのように利用あるいは拒否し、どの ように変容させるかを分析する。この計画では身体表現の現象学の一般理論を論じると同時に、 異なる社会文化的制度における身体性の変異と変容に注目する「比較現象学」の確立を目指す。 本研究では領域全体の発展を哲学的に再考・再構築し、ネットワークを広げる役割を担い、(1) 顔身体学の現象学的理論化、(2)比較現象学という方法論の確立、(3)身体加工の比較現象学 を目指す。(1)の顔身体学の現象学的理論化については、現象学とその周辺の哲学的理論を再検 討し、また、領域内での実証的な諸成果を十分に参照しながら、顔と身体が人間の存在にとって いかなるものであるか、とりわけ無自覚のうちに私たちが発信している身体的な表現が間主観 的相互作用に及ぼす影響、また身体に定着した文化社会的制度の意識化と変容の過程について の一般理論を構築する。(2)は、これまで現象学的哲学が疎遠であった文化人類学や比較文化 論の分野と連携し、文化社会的な事象を、個々の主体がどのように身体化し、どのように解釈し ていくかを、複数の文化社会のあいだで比較することで、各々の文化社会とそこに生きる個人と の関係を複眼的に明らかにしていくための一般的な方法論を理論的に確立させる。(3)はジェ ンダー意識とも絡めて、まず、化粧、被服、理容、入れ墨などの身体加工が、その主体の生活世 界においてどのような意味をもっているのか、また、それらの加工によりどのような対人関係の 変化が起きるのか、同種の加工であっても文化社会の違いによっていかなる自己変容が起きる のか、単なるアンケートだけではなく、インタビューや本領域研究における文化人類学者や心理 学者から協力を得ながらフィールドワークや心理学的調査を実施する。

3.研究の方法

研究方法としては、まず(1)顔身体学の現象学的理論化に関しては、文献研究と国内学会に参加することによる情報交換だけではなく、本新学術の他の研究計画班と密に交流し、それらの計画での成果を踏まえながら理論構築を行う。(2)身体加工の比較現象学の構築に関しては、海外の現象学者、認知科学者、社会学者、文化人類学者と連携し、身体加工の現象とその文化的、社会的、美的な意味と倫理性についての実証的調査・フィールドワーク(インタビュー、アンケート、参与観察)を行い、その結果を現象学的な観点から分析する。以上の研究の成果は、当研究領域内での成果報告、国内外の哲学・心理学・社会学・認知科学関連の学会、専門誌で発表することはもちろん、一般読者向けの書籍・雑誌、さらにインターネット上にウェブサイトを構築して研究成果を報告しながら、アウトリーチ活動も含め、広い範囲で成果の周知に努める。

4.研究成果

この研究は「顔・身体学」という新領域の確立に寄与するが、同時に、本研究は現象学・哲学としても二つの新しい試みを含んでいる。ひとつは「比較現象学」というこれまで現象学に存在しなかった分野と方法論の確立である。比較現象学は、人類学と心理学の実証的なデータに依拠しながら、文化社会制度の当事者の観点に立った比較的分析を行う点で、新しい現象学のあり方を追求している。また同時に、本研究は新しい「実験哲学」としての「実証的現象学」の試みとして位置づけることができる。この 20 年程で興隆してきた実験哲学は、哲学を思弁としての学から解き放ち、哲学の理論に関して批判的に実証的検討を加える新しい哲学の潮流である。しかしそのテーマは心の哲学や論理学など分析哲学の一部に限られている。本研究は、これに対して、より文化社会的なテーマについて哲学理論の実証的な裏付けを求める点において新しい研究分野と方法を切り開いている。これは哲学、及び現象学に、実証科学との新しい連携の可能性を示す独創的研究となるだろう。各年度の成果は以下のようである。

2017 年度は採択結果が 6 月に出て、実際に研究に従事できるようになったのが 7 月からのため、実質的に半期程度の活動となったが、以下の研究を実施できた。

(1)領域会議への参加と領域内での研究計画のすり合わせと交流:9月11日のキックオフシ ンポジウム、12 月 1 日の第 1 回領域会議において本計画班の目的と 5 年間の計画、基本的な理 論を発表し、領域内で共有した。また 12 月 2 日の第 2 回公開シンポジウムでは、比較現象学の 立場を打ち出し、領域全体をどのように哲学的に統括していくかについて論じた。3月初頭では、 バリ島ワークショップで、本計画班から菊竹智之氏と赤坂辰太郎氏に口頭発表してもらい、バリ 舞踊やガムランの研究者たちと議論し、異分野融合的な研究を展開できた。(2)自主シンポジ ウム: 3月 13日、14日、16日にフランスの現象学的身体論の第一人者、B・アンドリュー氏(パ リ第5大学)、A・ルジェンドル氏を招聘して、講演会とシンポジウム「間とあいだの比較現象 学」を実施した。全体で 12 名の発表者による 15 回の口頭発表が行われ、参加者は延べ 60 名ほ どであった。日仏米の比較から、時間的かつ空間的で、質的でもある「ま、あいだ、あわい」を めぐって、その記述方法や生活世界における意味について議論がなされ、このテーマでの特徴あ る国際シンポジウムとなった。(3)顔身体カフェ:12月23日の代官山クラブヒルサイドサロ ンにて、領域代表の山口氏を講師に招き、第1回顔身体カフェを、本領域のアウトリーチ活動と して行った。参加者 60 名。第二回は、金沢 21 世紀美術館の協力で 1 月 20-21 日に美術館のレア ンドロ・エルリッヒの展示を開設した後に、アートと身体性をテーマとした哲学対話を行い、本 研究についてのフィードバックを得ることができた。(4)比較現象学のためのアプリケーショ ンの開発: 本研究での現象学を遂行するための映像分析アプリケーションを開発し、 個別事例学 の具体的研究方法を得た。

2018 年度は本研究の 2 年目として、領域全体と連携しつつ予定通りに以下の 4 つの研究事業 を行った。(1)顔身体学の現象学的理論化:「顔身体学」の理論的な基盤を現象学的に整理し 体系化する作業を行った。成果は、2 度の領域会議、心理学班・文化人類学班と共同のワークシ ョップ、3月の自主シンポジウムで発表した。『顔身体学ハンドブック』を東大出版会に提案し 出版が決定した。(2)比較現象学という方法論の確立:国内外から講演者を招集し、顔身体運 動の文化社会的な側面に関して共同研究発表と情報交換を行った。8 月下旬の東華師範大学 (上 海)では、S.Gallagher(米)、J-M. Roy(仏)、Jing He ら上海・台湾グループと身体性認知の ワークショップを行い、11 月には、Gallagher を招聘して「匿名の視線と自己の成立」と題した 自主シンポジウム、同 11 月の日本現象学会大会では、Gallagher、D. Hutto などと米・豪の研究 チームと共同してシンポジウム「技能の現象学」を実施した。大きな公的な国際シンポジウムと なり、研究が大きく前進した。(3)人種とジェンダーの比較現象学の構築: A. AI-Sajiと H.Ngo を招致して、8月に世界哲学大会内の国際ワークショップ「文化横断的な人種の現象学」および 立教大学での連続ワークショップを実施し、人種化された顔身体の知覚と文化・社会的制度・宗 教の関連の分析を試みた。3 月に国際シンポジウム「トランスカルチャーとは何か」を開催し、 現代哲学や人類学の動向も視野に入れてトランスカルチャーの再定義を試み、その背景や文化 概念を明確化した。さらに、トランスジェンダーの顔身体表現、性自認と自己の身体認知の変容 の関係を検討し、比較現象学の一般理論を具体的な事象のもとで検証した。(4)顔身体カフェ の実施: アウトリーチ活動として顔身体カフェを心理学班と共同して東京と福島で実施した。 2019 年は、本研究の 3 年目として、領域全体と連携しつつ、以下の 3 つの研究・事業を行っ た。(1)顔身体学の現象学的理論化: 新学術領域「顔身体学」の理論的な基盤を整理し体系 化するため、河野と小手川が『顔身体ハンドブック』(東大出版会)の編集を共同で行った。(2) 身体の比較現象学の確立 : 身体性認知科学・哲学の専門家である A.Chemero 氏(シンシナティ大

学)を、身体性認知哲学で澄明な J-M. Roy 氏(リヨン高等師範学校)を、心の哲学を専門とする Jing He 氏(華東師範大学)をはじめ数名の研究者を招聘し、公募班の長滝祥司氏を含め多数の研究者が参加した「Radical Embodied Cognition」と関連ワークショップを開催した。9月には、顔と身体の神経生理学を専門とする J.Cole 氏を英国から招聘し、稲原美苗氏(神戸大)、M.Peckitt 氏(阪大)、河野とともに日本心理学会での公募シンポジウム、茂木健一郎氏と河野とともに日本顔学会で学会企画サテライト・シンポジウムを実施し、神経病理学的な立場から顔身体表現の意味を多角的に論じた。この分野の学会としてインパクトのあるシンポジウムとなった。(3)顔身体カフェの実施:12月に領域会議と合わせて領域代表の山口真美氏を提題者として顔身体カフェ「自分の顔が好きですか?顔を知ろう」をジュンク堂書店那覇店にて実施し、20名ほどの一般参加者と活発な議論を展開できた。

2020年度は、新型コロナウィルス感染拡大に伴って多くの国内国際学会が中止延期され、調査や実践研究についても当初の計画を大幅に変更せざるを得ない事態が生じた。そこで、研究調査とその発表をオンライン中心に切り替え、可能な範囲で最大限の研究進展に取り組んだ。

- (1)顔身体学の現象学的理論化:『顔身体学ハンドブック』(東大出版会)を21年3月に出版し、領域に理論的基礎と体系性を与えた。比較現象学的視点から、河野がアフリカの身体性概念を西洋のそれと比較する研究を行った。(2)顔身体学国際誌の発刊の準備:『哲学と文化的身体性』"Philosophy and Cultural Embodiment"という領域の総括班と各国の協力者を編集査読委員に据えた英文雑誌を21年前期にオンライン出版できた。これによりこの分野の自主的な国際発信が可能となった。(3)顔身体運動のビデオ映像分析・評価方法の展開:ビデオ録画された顔身体の運動やパフォーマンスをアーカイブ化し、デジタル人文学的な分析を日本心理学会と公開シンポジウムでオンライン発表し、個別事例学の方法論を提示した。(4)身体表現の制度化の比較現象学:8月に哲学、社会学、批判的人種理論、心理学を専門とする、台湾、フランス、アメリカ、日本の研究者を招いた国際シンポジウム「ミックスレイスの顔身体表象」をオンライン上で開催した。人種の経験や人種と容姿や化粧との関連についても研究を進め、日本顔学会が主催する顔学オンラインサロンで報告し、上記ハンドブックでその成果を発表した。21年3月には関本幸、クリストファー・ブラウン著『Race and the Senses』(2020)合評会をオンラインで開催し、社会的構築物としての人種経験の現象学的分析について議論した。
- (5)顔身体カフェの実施:領域全体のアウトリーチ活動として、韓亜由美氏と共同し、第7回 「顔身体カフェ:このまちでインクルーシブに出会う」を11月7日に芝浦で開催した。

2021年度は、河野は、拡張した心の医療・ケア領域への応用に関する国際学会での発表と、武道や舞などの伝統的なアートにおけるスキルとパフォーマンスを分析する研究、対話における身体性の効果について、コロナ禍によるオンラインでの対話と通常の対面での対話をビデオなどで録画し、独自アプリを使って比較して分析する研究を行なった。小手川は、人種をめぐる顔身体の知覚および偏見について現象学的観点から考察し、その倫理学的意義について検討した。人種については文学作品を手がかりとした現象学的アプローチについても検討し、その成果を踏まえて、ヌスバウムの感情の哲学を手がかりに、差別や偏見による分断について考察した。

2022 年度は、2021 年度の予算を一定額繰り越して、コロナ禍で実施が延期されていたフランスでの国際シンポジウムに参加することと、21 年度まで蓄えられたデータを整理し、国際雑誌の編集を中心に研究の取りまとめを行うことを主眼にした。国際シンポジウムは、フランス北西部スリジー・ラ・サールに位置するスリジー国際文化研究センターにおいて開催され、フランス現象学を代表する二人の哲学者である E. レヴィナスと M. メルロ = ポンティの二人を主題とした最新の研究成果を発表・意見交換をし、この分野の現在の動向を総覧できた。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件(うち査読付論文 12件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件)

【雑誌論文】 計28件(うち査読付論文 12件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス :	3件)
1. 著者名	4.巻
河野 哲也	2020
2.論文標題	5.発行年
人口と集中を抑制する新しい文化について	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
哲学	32 ~ 44
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
10.11439/philosophy.2020.32	無
,	
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	1 4 *
	4.巻
KONO Tetsuya	25
2.論文標題	5.発行年
The Concept of Natural Contact and the Culture of Diffusion	2020年
·	
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
TRENDS IN THE SCIENCES	11_12 ~ 11_15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
10.5363/tits.25.11_12	有
10.0000/1110.20.11_12	F
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1 . 著者名	4 . 巻
Kono Tetsuya	30
2.論文標題	5.発行年
Recent movements in theoretical psychology in Japan	2020年
Recent movements in theoretical psychology in Japan	20204
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Theory & Psychology	842 ~ 851
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
10.1177/0959354320935205	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1 . 著者名	4 . 巻
河野哲也	6
Mai ii ii	
2 . 論文標題	5.発行年
アフリカに哲学は存在するか	2021年
ノフリルにロチはけ仕するが、	
	6.最初と最後の頁
	6.最初と最後の頁 251-267
3 . 雑誌名	
3.雑誌名 立教大学教育学科研究年報	251 - 267
3.雑誌名 立教大学教育学科研究年報 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	251-267 査読の有無
3.雑誌名 立教大学教育学科研究年報	251 - 267
3 . 雑誌名 立教大学教育学科研究年報 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	251-267 査読の有無

│ 1.著者名	4 . 巻
小手川正二郎	121
3 3 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	
2.論文標題	5.発行年
人種の現象学:人種化する経験と人種化される経験から人種差別を考える	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
國學院雑誌	1-13
Ext 3-1700 to 100	
<u></u> 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	本芸の左便
	査読の有無
なし	有
「オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	_
コープングランとれてはなく、人はコープングランと人が四条	
	1 . "
1.著者名	4 . 巻
佐古仁志	15
2.論文標題	5.発行年
~・端久伝恩 批判的常識主義に基づくパースの知覚論:直接知覚と間接知覚をつなぐ二重のアプダクション	
111月11日 111日 111	2020年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
セミオトポス	176-190
母型をかみ 2001 / プッカルナブックト 1 禁助リスト	本芸の大畑
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
カープラックと人ではない、人はカープラックと人が四条	_
	1 , 24
1.著者名	4 . 巻
1 . 著者名 佐古仁志	4 . 巻 15
	_
佐古仁志	15
佐古仁志 2 . 論文標題	5.発行年
佐古仁志	15
佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション	5.発行年 2020年
佐古仁志 2 . 論文標題	5.発行年
佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション	5.発行年 2020年
佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3 . 雑誌名	5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁
佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3 . 雑誌名	5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁
佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアプダクション 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299
佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無
佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアプダクション 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299
佐古仁志 2. 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3. 雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無
佐古仁志 2.論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3.雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無
佐古仁志 2.論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3.雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無
佐古仁志 2. 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3. 雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無
佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著
佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著
佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著
佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著
佐古仁志 2.論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3.雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Kono, Tetsuya	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 37
佐古仁志 2.論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3.雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Kono, Tetsuya 2.論文標題	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 37
 佐古仁志 2.論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3.雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Kono, Tetsuya 2.論文標題 Phenomenology of Ma and Maai: An Interpretation of Zeami's Body Cosmology from a 	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 37
佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアプダクション 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Kono, Tetsuya 2 . 論文標題 Phenomenology of Ma and Maai: An Interpretation of Zeami's Body Cosmology from a Phenomenological Point of View	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 37 5 . 発行年 2019年
在古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Kono, Tetsuya 2 . 論文標題 Phenomenology of Ma and Maai: An Interpretation of Zeami's Body Cosmology from a Phenomenological Point of View 3 . 雑誌名	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 37 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
 佐古仁志 2.論文標題 科学の方法における発見とアプダクション 3.雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Kono, Tetsuya 2.論文標題 Phenomenology of Ma and Maai: An Interpretation of Zeami's Body Cosmology from a Phenomenological Point of View 	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 37 5 . 発行年 2019年
佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Kono, Tetsuya 2 . 論文標題 Phenomenology of Ma and Maai: An Interpretation of Zeami's Body Cosmology from a Phenomenological Point of View 3 . 雑誌名	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 37 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Kono, Tetsuya 2 . 論文標題 Phenomenology of Ma and Maai: An Interpretation of Zeami's Body Cosmology from a Phenomenological Point of View 3 . 雑誌名	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 37 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
在古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Kono, Tetsuya 2 . 論文標題 Phenomenology of Ma and Maai: An Interpretation of Zeami's Body Cosmology from a Phenomenological Point of View 3 . 雑誌名 New generation computing	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 37 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 247-261
 佐古仁志 2.論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3.雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Kono, Tetsuya 2.論文標題 Phenomenology of Ma and Maai: An Interpretation of Zeami's Body Cosmology from a Phenomenological Point of View 3.雑誌名 New generation computing 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 37 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 247-261
 佐古仁志 2.論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3.雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Kono, Tetsuya 2.論文標題 Phenomenology of Ma and Maai: An Interpretation of Zeami's Body Cosmology from a Phenomenological Point of View 3.雑誌名 New generation computing 	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 37 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 247-261
 佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 37 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 247-261
 佐古仁志 2.論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3.雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Kono, Tetsuya 2.論文標題 Phenomenology of Ma and Maai: An Interpretation of Zeami's Body Cosmology from a Phenomenological Point of View 3.雑誌名 New generation computing 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 37 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 247-261
 佐古仁志 2 . 論文標題 科学の方法における発見とアブダクション 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 291-299 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 37 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 247-261

1.著者名	
	4.巻
河野哲也	120
2	F 38/-7F
2.論文標題	5.発行年
科学・真理と民主主義の関係とその教育的意味	2019年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
教育哲学研究	39-57
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
⊕ ∪	i i
+	同
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	<u> </u>
1 . 著者名	4 . 巻
Kono Tetsuya	35
2.論文標題	5 . 発行年
	2019年
The symposium at the 40th Annual Conference of The Phenomenological Association of Japan:	20194
Phenomenology of Skilled Performance	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
現象学年報	39-45
相等50mmの1/ デッカリー・デッカリー・デック	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
河野哲也	19
/기차리면	19
2 . 論文標題	5.発行年
顔の比較現象学	2019年
	· .
3	6 最初と最後の百
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
3.雑誌名 日本顔学会誌	6.最初と最後の頁 25-31
日本顔学会誌	
日本顔学会誌	25-31
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	25-31 査読の有無
日本顔学会誌	25-31
日本顔学会誌 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	25-31 査読の有無 無
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス	25-31 査読の有無
日本顔学会誌 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	25-31 査読の有無 無
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス	25-31 査読の有無 無
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	25-31 査読の有無 無 国際共著
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	25-31 査読の有無 無 国際共著 -
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	25-31 査読の有無 無 国際共著
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	25-31 査読の有無 無 国際共著 -
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 河野哲也	25-31 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 36
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 河野哲也 2 . 論文標題	25-31 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 36
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 河野哲也	25-31 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 36
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 河野哲也 2 . 論文標題 夏目漱石と平塚らいてうにおける種と個人の相克	25-31 査読の有無 無 国際共著 4 . 巻 36 5 . 発行年 2019年
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 河野哲也 2 . 論文標題	25-31 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 36
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 河野哲也 2 . 論文標題 夏目漱石と平塚らいてうにおける種と個人の相克 3 . 雑誌名	25-31 査読の有無 無 国際共著 4 . 巻 36 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 河野哲也 2 . 論文標題 夏目漱石と平塚らいてうにおける種と個人の相克	25-31 査読の有無 無 国際共著 4 . 巻 36 5 . 発行年 2019年
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 河野哲也 2 . 論文標題 夏目漱石と平塚らいてうにおける種と個人の相克 3 . 雑誌名	25-31 査読の有無 無 国際共著 4 . 巻 36 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
日本顔学会誌	25-31 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 36 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 29-44
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 河野哲也 2 . 論文標題 夏目漱石と平塚らいてうにおける種と個人の相克 3 . 雑誌名	25-31 査読の有無 無 国際共著 4 . 巻 36 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
日本顔学会誌	25-31 査読の有無 国際共著 4.巻 36 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 29-44 査読の有無
日本顔学会誌	25-31 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 36 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 29-44
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 河野哲也 2 . 論文標題 夏目漱石と平塚らいてうにおける種と個人の相克 3 . 雑誌名 女性空間 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	25-31 査読の有無 国際共著 4.巻 36 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 29-44 査読の有無 有
日本顔学会誌	25-31 査読の有無 国際共著 4.巻 36 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 29-44 査読の有無
日本顔学会誌 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 河野哲也 2 . 論文標題 夏目漱石と平塚らいてうにおける種と個人の相克 3 . 雑誌名 女性空間 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	25-31 査読の有無 国際共著 4.巻 36 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 29-44 査読の有無 有

1.著者名	4 . 巻
小手川正二郎	47
2.論文標題	5.発行年
反出生主義における現実の難しさからの逸れ: 反出生主義の三つの症候	2019年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
現代思想	179-188
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
4	4 *
1.著者名	4.巻
國領 佳樹	22
2.論文標題	5 . 発行年
メルロ=ポンティの実在論的現象学: グールヴィッチとの隔たり	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
メルロ=ポンティ研究	61-78
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.14937/merleaujp.22.61	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
國領 佳樹	35
(2) (五) (M)	
2 . 論文標題	5 . 発行年
ワークショップ 他者の感情はみえるのか?: 現象学と分析哲学の源泉から問い直す (日本現象学会第40回	2019年
研究発表大会ワークショップ報告) 3.雑誌名	6.最初と最後の頁
現象学年報	17-21
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	本芸の左毎
掲載舗又のDOI(テンダルオプシェクト識別子) なし	査読の有無 無
'& U	
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
佐古仁志	14
2 - 经文価時	c
2. 論文標題 - 「京日 - 12.01	5 . 発行年
「自己制御」とその極としての「希望」あるいは「偏見」:パースにおける「共同体」	2019年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
日本記号学会『転生するファッション』セミオトポス	166-179
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
	有
なし	
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著

1 . 著者名	4 . 巻
Sako, Satoshi	15
2.論文標題	5 . 発行年
Considering the Roles of "Empathy" in an Ecological Approach from Peirce's Perspective	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Studies in Perception and Action	157-160
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名	4.巻
佐古仁志	30
2.論文標題	5 . 発行年
生成へと到る旅路(プロセス): 哲学と心理学の < あいだ > の人類学者ティム・インゴルド	2020年
3.雑誌名	6 . 最初と最後の頁
江戸川大学『江戸川大学紀要』	257-265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名	4.巻
小手川正二郎	13
2.論文標題	5 . 発行年
難民の倫理学 見ず知らずの難民に責任を負うべきなのか	2018年
3.雑誌名	6 . 最初と最後の頁
情報文化論	26-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	 査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名	4 .巻
小手川正二郎	119
2.論文標題「男らしさ」(masculinities)の現象学試論 「男らしさ」の現象学はフェミニズムに寄与しうるのか?	5 . 発行年 2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
國學院雑誌	1-14
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	 査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著

1 . 書名名 ハ中川正一郎		
小手川正二郎 12 2. 論女福節 人間主義と形而上学 人間性をめぐるハイデガーとレヴィナスの対決 5、発行年 2016年 3. 雑誌名 heldegger-Forus 6、最初と最後の頁 1.16 掲載説文の001 (デジタルオプジェクト機別子) なし 画際共著 - 1. 著書名 佐古こ志 4. 整 2 2. 論文標題 「共義」に対する生態心理学的アプローチ 5. 発行年 2018年 3. 創証名 佐古に志 6. 最初と最後の頁 53-60 3. 創証名 佐古に志 4. を 3. の 3. 創証名 佐古に志 1. 著書名 佐古に志 4. を 3. 3. 4. を 4. を 3. 4. を 5. 5. 5. 5. 6. 6. 6. 6. 6. 6. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7	│ 1.著者名	4.巻
2. 論文種題 人間出産と形而上学 人間性をめぐるハイデカーとレヴィナスの対決 3. 雑誌名 1. 選訴ののEDI (デジタルオブジェクト機別子) なし 1. 著名名 佐古に志 2. 論文種題 「共勝、比対する生態心理学的アプローチ 3. 雑誌名 「収射・を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 1. 著名名 (佐古に志 2. 論文程題 「収射・を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 3. 雑誌名 「収射・を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 3. 雑誌名 「収射・を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5. 飛行年 2016年 1. 著名名 佐古に志 2. 論文程題 「収射・を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5. 飛行年 1. 第四次のEDI (デジタルオブジェクト機別子) なし 1. 著名名 佐古に志 2. 論文程題 「収射・を手がかりたした「アブダクション」の分析と展開 5. 飛行年 2016年 1. 著名名 佐古に志 2. 論文程題 「収射・を手がかりたした「アブダクション」の分析と展開 5. 飛行年 2016年 2016年 3. 雑誌名 「収射・を手がかりた」を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を		
A問し義と形而上学 人間性をめぐるハイデガーとレヴィナスの対決 2018年 3 : 結話名 6 : 最初と最後の頁 1-16 1-	3 3 7 1 AL MIT	'-
A問し義と形而上学 人間性をめぐるハイデガーとレヴィナスの対決 2018年 3 : 結話名 6 : 最初と最後の頁 1-16 1-	0. 40.1.17.07	= 7v./= /=
3 . 総証名 Helidegger-Forum		
Heidesger-Forum	│ 人間主義と形而上学 人間性をめぐるハイデガーとレヴィナスの対決	2018年
Heidesger-Forum		
Heidesger-Forum	3 雑誌名	6 最初と最後の百
表記の有無 無		
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	Heldegger-Forum	1-16
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
1 著名名	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 - 1 著者名 佐古仁志 2 2 . 論文標題 「共感」に対する生態心理学的アブローチ 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 6 . 最初と最後の頁 53-60 ガーブンアクセス オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 国際共著 13 2 . 論文標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 開博の記号論(叢書セミオトポス13) 6 . 最初と最後の頁 144-158 4 . 巻 15 144-158 5 . 発行年 2018年 144-158 7 ー ブンアクセス 国際共著 1 . 著者名 佐古仁志 4 . 巻 11 1 . 著者名 佐古仁志 4 . 巻 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 4 . 巻 11 2 . 競行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 4 . 巻 11 無	40	////
オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 - 1 著者名 佐古仁志 2 2 . 論文標題 「共感」に対する生態心理学的アブローチ 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 6 . 最初と最後の頁 53-60 ガーブンアクセス オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 国際共著 13 2 . 論文標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 開博の記号論(叢書セミオトポス13) 6 . 最初と最後の頁 144-158 4 . 巻 15 144-158 5 . 発行年 2018年 144-158 7 ー ブンアクセス 国際共著 1 . 著者名 佐古仁志 4 . 巻 11 1 . 著者名 佐古仁志 4 . 巻 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 4 . 巻 11 2 . 競行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 4 . 巻 11 無		
1 ・著者名 佐古仁志	オープンアクセス	国際共著
1 ・著者名 佐古仁志	オープンアクセスではかい ▽はオープンアクセスが困難	_
佐古仁志 2 2 . 論文標題 「共感」に対する生態心理学的アプローチ 5 . 飛行年 2019年 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 6 . 最初と最後の頁 53-60 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし 国際共著 オープンアクセス 国際共著 1 . 著名名 佐古仁志 4 . 巻 13 2 . 論文標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5 . 飛行年 2018年 3 . 雑誌名 賭博の記号論(業書セミオトボス13) 6 . 最初と最後の頁 144-158 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし 国際共著 1 . 著名名 佐古仁志 4 . 巻 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生懸学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 是初と最後の頁 22-25 2 . 論文標題 北外的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生懸学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 なし 6 . 是初と最後の頁 22-26 1 . 養初子年 2018年 6 . 最初と最後の頁 22-27 1 . 養初子年 2018年 6 . 最初と最後の頁 22-27	カープラッと外ではない、人はカープラックとスカ四年	_
佐古仁志 2 2 . 論文標題 「共感」に対する生態心理学的アプローチ 5 . 飛行年 2019年 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 6 . 最初と最後の頁 53-60 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし 国際共著 オープンアクセス 国際共著 1 . 著名名 佐古仁志 4 . 巻 13 2 . 論文標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5 . 飛行年 2018年 3 . 雑誌名 賭博の記号論(業書セミオトボス13) 6 . 最初と最後の頁 144-158 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし 国際共著 1 . 著名名 佐古仁志 4 . 巻 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生懸学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 是初と最後の頁 22-25 2 . 論文標題 北外的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生懸学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 なし 6 . 是初と最後の頁 22-26 1 . 養初子年 2018年 6 . 最初と最後の頁 22-27 1 . 養初子年 2018年 6 . 最初と最後の頁 22-27		
2. 論文標題 「共感」に対する生態心理学的アプローチ 3. 雑誌名 江戸川大学紀要 5. 発行年 2019年 6. 最初と最後の頁 53-60 掲載論文の001(デジタルオプジェクト識別子) なし 1. 著名名 佐古仁志 2. 論文標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 3. 雑誌名 財博の記号論(蓄書セミオトポス13) 掲載論文の001(デジタルオプジェクト識別子) なし 1. 著名名 佐古仁志 2. 論文標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 3. 雑誌名 財博の記号論(蓄書セミオトポス13) 144-158 1	1 . 著者名	4.巻
2 . 論文標題 「共感」に対する生態心理学的アプローチ 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 6 . 最初と最後の頁 53-60 掲載論文の001(デジタルオプジェクト識別子) なし 1 . 著書名 佐古仁志 2 . 論文標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 3 . 雑誌名 1 . 著書名 (佐古仁志	29
「共感」に対する生態心理学的アプローチ 2019年 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 6 . 最初と最後の頁 53-60 掲載論文の001 (デジタルオブジェクト識別子)なし 重藤の有無無無 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 1 . 著名名 佐古仁志 4 . 巻 13 2 . 論文標題「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 財間側の記号論(叢書セミオトボス13) 6 . 最初と最後の頁 144-158 掲載論文の001 (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 国際共著 - 1 . 著名名 佐古仁志 北判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 - 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文の001 (デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無無 オープンアクセス 国際共著		
「共感」に対する生態心理学的アプローチ 2019年 3 . 雑誌名 江戸川大学紀要 6 . 最初と最後の頁 53-60 掲載論文の001 (デジタルオブジェクト識別子)なし 重藤の有無無無 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 1 . 著名名 佐古仁志 4 . 巻 13 2 . 論文標題「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 財間側の記号論(叢書セミオトボス13) 6 . 最初と最後の頁 144-158 掲載論文の001 (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 国際共著 - 1 . 著名名 佐古仁志 北判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 - 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文の001 (デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無無 オープンアクセス 国際共著	2 *_\	5 78/- /-
3 ・雑誌名		
3 ・雑誌名	「共感」に対する生態心理学的アプローチ	2019年
1		'
1	2 推计权	6 見知し見後の五
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		
### オープンアクセス	江戸川大学紀要	53-60
### オープンアクセス		
### オープンアクセス		
### オープンアクセス	担当なかのDOL(デンタルナデンタルナデン	本芸の大畑
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 茶者名 佐古仁志 13 5 . 発行年 7 投射」を手がかりにした「アプダクション」の分析と展開 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 144-158		
オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 - 1. 著者名 佐古仁志 4. 巻 13 2. 論文標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5. 発行年 2018年 3. 雑誌名 賭博の記号論(叢書セミオトポス13) 6. 最初と最後の頁 144-158 掲載論文の001(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 1. 著者名 佐古仁志 4. 巻 11 2. 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5. 発行年 2018年 3. 雑誌名 生態心理学研究 6. 最初と最後の頁 22-25 掲載論文の0001(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	なし	無
オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 - 1. 著者名 佐古仁志 4. 巻 13 2. 論文標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5. 発行年 2018年 3. 雑誌名 賭博の記号論(叢書セミオトポス13) 6. 最初と最後の頁 144-158 掲載論文の001(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 1. 著者名 佐古仁志 4. 巻 11 2. 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5. 発行年 2018年 3. 雑誌名 生態心理学研究 6. 最初と最後の頁 22-25 掲載論文の0001(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 - 1. 著者名 佐古仁志 4. 巻 13 2. 論文標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5. 発行年 2018年 3. 雑誌名 賭博の記号論(叢書セミオトポス13) 6. 最初と最後の頁 144-158 掲載論文の001(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 1. 著者名 佐古仁志 4. 巻 11 2. 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5. 発行年 2018年 3. 雑誌名 生態心理学研究 6. 最初と最後の頁 22-25 掲載論文の0001(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	オープンアクセス	国際共著
1 . 著者名 佐古仁志		国际 六日
佐古仁志 13 2 . 論文標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 賭博の記号論(叢書セミオトポス13) 6 . 最初と最後の頁 144-158 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 佐古仁志 国際共著 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 4 . 巻 11 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	オーノンアクセス ではない、 又はオーノンアクセスか困難	-
佐古仁志 13 2 . 論文標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 賭博の記号論(叢書セミオトポス13) 6 . 最初と最後の頁 144-158 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 佐古仁志 国際共著 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 4 . 巻 11 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
佐古仁志 13 2 . 論文標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 賭博の記号論(叢書セミオトポス13) 6 . 最初と最後の頁 144-158 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 佐古仁志 国際共著 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 4 . 巻 11 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	1.著者名	4 . 巻
2 . 論文標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 賭博の記号論(叢書セミオトポス13) 6 . 最初と最後の頁 144-158 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 有 オープンアクセス 体占し志 国際共著 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 2018年 3. 雑誌名 賭博の記号論(叢書セミオトポス13) 6.最初と最後の頁 144-158 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 有 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 こ 1.著者名 佐古仁志 4.巻 11 2.論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5.発行年 2018年 3.雑誌名 生態心理学研究 6.最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	ᄄᄆᄂᄵ	13
「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 2018年 3. 雑誌名 賭博の記号論(叢書セミオトポス13) 6.最初と最後の頁 144-158 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 有 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 こ 1.著者名 佐古仁志 4.巻 11 2.論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5.発行年 2018年 3.雑誌名 生態心理学研究 6.最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開 2018年 3. 雑誌名 賭博の記号論(叢書セミオトポス13) 6.最初と最後の頁 144-158 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 有 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 こ 1.著者名 佐古仁志 4.巻 11 2.論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5.発行年 2018年 3.雑誌名 生態心理学研究 6.最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	2.論文標題	5.発行年
3 . 雑誌名 賭博の記号論(叢書セミオトポス13) 6 . 最初と最後の頁 144-158 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 体占仁志 国際共著 1 . 著者名 佐古仁志 4 . 巻 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合: 生態学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開	2018年
賭博の記号論(叢書セミオトポス13) 144-158 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 - 1.著者名 佐古仁志 4.巻 11 2.論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5.発行年 2018年 3.雑誌名 生態心理学研究 6.最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		20.01
賭博の記号論(叢書セミオトポス13) 144-158 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 - 1.著者名 佐古仁志 4.巻 11 2.論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5.発行年 2018年 3.雑誌名 生態心理学研究 6.最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	2 145+47	6 見知し目然の声
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	** *** *	り、最初と最後の貝
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	賭博の記号論(叢書セミオトポス13)	144-158
なし 有 オープンアクセス 国際共著 1 . 著者名 佐古仁志 4 . 巻 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合: 生態学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
なし 有 オープンアクセス 国際共著 1 . 著者名 佐古仁志 4 . 巻 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合: 生態学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
なし 有 オープンアクセス 国際共著 1 . 著者名 佐古仁志 4 . 巻 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合: 生態学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	相乗込みのDOL(ごうちょ・オント・ト・サロフ)	本芸の大畑
オープンアクセス 国際共著 1 . 著者名 佐古仁志 4 . 巻 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合: 生態学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
オープンアクセス 国際共著 1 . 著者名 佐古仁志 4 . 巻 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合: 生態学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	なし	有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 佐古仁志 4 . 巻 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 佐古仁志 4 . 巻 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	オープンアクセフ	国際共著
1 . 著者名 佐古仁志 4 . 巻 11 2 . 論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合: 生態学的知覚論をめざして 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 生態心理学研究 6 . 最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
佐古仁志112.論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして5.発行年 2018年3.雑誌名 生態心理学研究6.最初と最後の頁 22-25掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	オーフンアクセスではない、又はオーフンアクセスが困難	-
佐古仁志112.論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして5.発行年 2018年3.雑誌名 生態心理学研究6.最初と最後の頁 22-25掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		
佐古仁志112.論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして5.発行年 2018年3.雑誌名 生態心理学研究6.最初と最後の頁 22-25掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	1 苯字名	Λ 发
2.論文標題 批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合:生態学的知覚論をめざして 5.発行年 2018年 3.雑誌名 生態心理学研究 6.最初と最後の頁 22-25 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		_
批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合: 生態学的知覚論をめざして2018年3.雑誌名 生態心理学研究6.最初と最後の頁 22-25掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	佐白仁志	11
批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合: 生態学的知覚論をめざして2018年3.雑誌名 生態心理学研究6.最初と最後の頁 22-25掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		
批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合: 生態学的知覚論をめざして2018年3.雑誌名 生態心理学研究6.最初と最後の頁 22-25掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	2 . 論文標題	5.発行年
3.雑誌名 6.最初と最後の頁 生態心理学研究 22-25 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無 オープンアクセス 国際共著		
生態心理学研究 22-25 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無 オープンアクセス 国際共著	וניוניאון 市峨工我で沐川にひに且按和見と同按和見の統立 . 土忠子的和見論を切らして	2010 "
生態心理学研究 22-25 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無 オープンアクセス 国際共著		I
生態心理学研究 22-25 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無 オープンアクセス 国際共著		
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
なし 無		
なし 無		
なし 無		
なし 無	生態心理学研究	22-25
オープンアクセス 国際共著	生態心理学研究	22-25
	生態心理学研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	22-25 査読の有無
	生態心理学研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	22-25 査読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 -	生態心理学研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	22-25 査読の有無 無
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	生態心理学研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	22-25 査読の有無 無
	生態心理学研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	22-25 査読の有無 無

1.著者名	4 . 巻
岡嶋隆佑	34
[번] 바까 [번]	
2 . 論文標題	5.発行年
ベルクソン『物質と記憶』における「私の現在」の概念について	2018年
100 Dec College Colleg	2010
4844	c = +11 + = // = 7
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
現象学年報	93-100
2007.0	
	+++ - + m
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
· · · · · · =· ·	当际六有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
河野哲也	1118
2 . 論文標題	5 . 発行年
排除なき世界への倫理	2017年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
思想	55-70
ADVIDA	33-10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
& O	////
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	. 14
1.著者名	4 . 巻
1. 著者名 岡嶋隆佑	4. を 22
岡嶋隆佑	22
回嶋隆佑 2.論文標題	5 . 発行年
岡嶋隆佑	22
回嶋隆佑 2.論文標題	5 . 発行年
岡嶋隆佑 2 . 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について	22 5.発行年 2017年
岡嶋隆佑2.論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について3.雑誌名	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁
岡嶋隆佑 2 . 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について	22 5.発行年 2017年
岡嶋隆佑2.論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について3.雑誌名	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁
岡嶋隆佑2.論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について3.雑誌名	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁
図嶋隆佑 2. 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究	22 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-111
図嶋隆佑 2.論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3.雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111
図嶋隆佑 2. 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究	22 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-111
図嶋隆佑 2. 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111
図嶋隆佑 2. 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無
図嶋隆佑 2.論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3.雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111
図・論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3.雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無
図・論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3・雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無
回嶋隆佑 2 . 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3 . 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著
可以條件 2. 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著
回嶋隆佑 2 . 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3 . 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著
回嶋隆佑 2 . 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3 . 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐古仁志	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著
岡嶋隆佑 2. 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著
図嶋隆佑 2. 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 佐古仁志 2. 論文標題	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年
 岡嶋隆佑 2.論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3.雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年
図嶋隆佑 2. 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 佐古仁志 2. 論文標題 エコロジカル・アプローチのあらたな展開に向けて 染谷昌義『知覚経験の生態学:哲学へのエコロジカル・アプローチ』書評	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2017年
図嶋隆佑 2. 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 佐古仁志 2. 論文標題 エコロジカル・アプローチのあらたな展開に向けて 染谷昌義『知覚経験の生態学:哲学へのエコロジカ	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年
図嶋隆佑 2 . 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3 . 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁
図嶋隆佑 2. 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 佐古仁志 2. 論文標題 エコロジカル・アプローチのあらたな展開に向けて 染谷昌義『知覚経験の生態学:哲学へのエコロジカル・アプローチ』書評	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2017年
図嶋隆佑 2 . 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3 . 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐古仁志 2 . 論文標題 エコロジカル・アプローチのあらたな展開に向けて 染谷昌義『知覚経験の生態学:哲学へのエコロジカル・アプローチ』書評 3 . 雑誌名	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁
回嶋隆佑 2 . 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3 . 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐古仁志 2 . 論文標題 エコロジカル・アプローチのあらたな展開に向けて ル・アプローチ』書評 3 . 雑誌名 生態心理学研究	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 25-29
図嶋隆佑 2 . 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3 . 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁
回嶋隆佑 2 . 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3 . 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐古仁志 2 . 論文標題 エコロジカル・アプローチのあらたな展開に向けて 染谷昌義『知覚経験の生態学:哲学へのエコロジカル・アプローチ』書評 3 . 雑誌名 生態心理学研究	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 25-29
回嶋隆佑 2 . 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3 . 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐古仁志 2 . 論文標題 エコロジカル・アプローチのあらたな展開に向けて 染谷昌義『知覚経験の生態学:哲学へのエコロジカル・アプローチ』書評 3 . 雑誌名 生態心理学研究	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 25-29
岡嶋隆佑 2.論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3.雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 佐古仁志 2.論文標題 エコロジカル・アプローチのあらたな展開に向けて 染谷昌義『知覚経験の生態学:哲学へのエコロジカル・アプローチ』書評 3.雑誌名 生態心理学研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 25-29 査読の有無 無
図嶋隆佑 2. 論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 佐古仁志 2. 論文標題 エコロジカル・アプローチのあらたな展開に向けて ル・アプローチ。書評 3. 雑誌名 生態心理学研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 25-29
図嶋隆佑 2.論文標題 ベルクソン『物質と記憶』におけるイマージュ概念について 3.雑誌名 フランス哲学・思想研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 佐古仁志 2.論文標題 エコロジカル・アプローチのあらたな展開に向けて 染谷昌義『知覚経験の生態学:哲学へのエコロジカル・アプローチ』書評 3.雑誌名 生態心理学研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし	22 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-111 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 25-29 査読の有無 無

〔学会発表〕 計77件(うち招待講演 18件 / うち国際学会 15件)
1. 発表者名
河野哲也
2 . 発表標題
カリブ・アフリカ哲学からの問い
3. 学会等名
京都フォーラム「世界哲学を構想する」(招待講演)
4.発表年
2020年
1.発表者名
河野哲也
2 . 発表標題
間合いとは何か: 現代哲学の観点から
3.学会等名
3 . チェマロ 日本認知科学会の研究分科会「間合い - 時空間インタラクション」特別企画『「間合い」とは何か: 二人称的身体論』(招待講演)
4 . 発表年 2020年
2020-
1.発表者名
Kono Tetsuya
2. 発表標題
2 . সংবাদক্ষ Clothing as an Extension of the Body: A Phenomenology of Clothing Under Transcultural Conditions
3 . 学会等名
International Symposium: Performing Self and Playing with Otherness: Clothing and Costuming under Transcultural Conditions,
Research Center for Society an Culture(国際学会) 4.発表年
2020年
1.発表者名
・ 元代自日 - 奥井遼
2 . 発表標題
型・段取り・間:人形浄瑠璃における三人遣いの間合い
3 . 学会等名 日本認知科学会間合い研第17回分科会「間合い - 時空間インタラクション 」(招待講演)
4 . 発表年
2020年

1 . 発表者名 小谷弥生
2 . 発表標題
能における「間(あいだ)」と「合」について:能舞台における音楽
3 . 学会等名
日本認知科学会間合い研第17回分科会「間合い - 時空間インタラクション」(招待講演)
4 . 発表年 2020年
1 . 発表者名 河野哲也
2 . 発表標題 舞台芸能における間合い
AL ARCOLL COLLEGE
3 . 学会等名 日本認知科学会間合い研第17回分科会「間合い - 時空間インタラクション」
4 . 発表年 2020年
1 . 発表者名 マセソン美季
くピノン美子
2 . 発表標題
パラスポーツの経験から
3 . 学会等名
科研費新学術領域研究(研究領域提案型)「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築: 多文化をつなぐ顔と身体表現」公開シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4.発表年
2020年
1.発表者名
牧野遼作
2.発表標題
身体の動かし方を他者に伝え、気づかせる:リハビリテーションでの専門家とクライアント間の微細な相互調整
3.学会等名
科研費新学術領域研究(研究領域提案型)「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築: 多文化をつなぐ顔と身体表現」公開シンポジウム(国際学会)
4.発表年 2020年
ZUZU * -

1.発表者名 河野哲也
2. 発表標題
2 : 光表保護 障害と身体運動、間身体的交流:パラスポーツとリハビリテーション
3.学会等名
科研費新学術領域研究(研究領域提案型)「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築: 多文化をつなぐ顔と身体表現」公開シン ポジウム(国際学会)
4 . 発表年 2020年
1.発表者名
Kono Tetsuya
2. 発表標題
Vegetable Soul and Animal Mind
3.学会等名 What's Next!?: The Future of embodiment, Panel 3 "What's next for embodied cognition?, The 54th Annual Philosophy
Colloquium, Cincinnati Arts and Sciences (招待講演) (国際学会) 4.発表年
2021年
1.発表者名 河野哲也
2. 発表標題
私たちはファノンと南アフリカから何を学べるか:ファノンの解放思想、スティープン・ビコ、ネルソン・マンデラ
3.学会等名
日仏哲学会2021年春季大会
4.発表年 2021年
1. 発表者名
池田喬,小手川正二郎
2 . 発表標題 人種の現象学
3.学会等名
顔身体科研国際シンポジウム「ミックスレイスの顔身体表象」
4 . 発表年 2020年

1.発表者名
佐古仁志
とこれでは 学習の方法としての「対話」 :パースにおける自己と共同体の成長
Tavinaco co vini I.V. Vicon on Confidence
3 . 学会等名
日本記号学会第40回大会
4.発表年
2020年
1.発表者名
國領佳樹
- 2 英字価度
2.発表標題 (海内学の学の大学の) 温密
行為に基づく知覚の説明とその哲学的洞察
3.5年4日 第87回心の科学の基礎論研究会
2020年
1.発表者名
河野哲也
2.発表標題
人口と集中を抑制する新しい文化について
3.子云寺石 日本哲学会第七十八回年次大会シンポジウム(招待講演)
口平台子云第七十八四年从人云シノかシソム(指付்
4.発表年
4 · 光农中 2019年
2010
1.発表者名
2 . 発表標題
アフリカ哲学を導入するために
3.学会等名
京都フォーラム「世界哲学を構想する」会(招待講演)
A
4.発表年 2010年
2019年

1.発表者名
Kono, Tetsuya
2.発表標題
Japanese gardens and the sense of nature
3.学会等名
The 11th International Convention of Asia Scholars
4.発表年
2019年
1.発表者名
Kono, Tetsuya
2 . 発表標題
The Possibility of the Vegetable Mind as a Counter-concept of the Cartesian Mind
3 . 学会等名
ISTP (The International Society for Theoretical Psychology) 2019 Conference
4. 発表年
2019年
1.発表者名
河野哲也
2. 発表標題
顔認知の発達と障害と
- 2 半人がな
3.学会等名
日本心理学会第83回大会公募シンポジウム
4.発表年
2019年
1.発表者名
Kono, Tetsuya
2.発表標題
顔の科学:内側から見た顔
0 WAMP
3. 学会等名
第24回日本顔学会大会公開サテライトシンポジウム
4.発表年
2019年

1. 発表者名
河野哲也
2 . 発表標題
環境問題と人口と集中を抑制する新しい文化について
s. WAME
3.学会等名
比較文明学会例会(招待講演)
4.発表年
2019年
2010—
1.発表者名
Kono, Tetsuya
2. 発表標題
Kendo, Art of the Life-Giving Sword: Maai (distancing) and No-Beat Striking
3.学会等名
ACAPS (Assocation des chercheurs en Activites Physiques et Sportives) 18em Congres international (招待講演)
(1611 and (1611 and an internal on internal of the first
4 . 発表年
2019年
1.発表者名
河野哲也
2.発表標題
本意義
G/H G F M S
3 . 学会等名
日本学術会議哲学委員会主催公開シンポジウム(招待講演)
4 . 発表年
2019年
4 改丰业权
1. 発表者名
Kono, Tetsuya
2.発表標題
The Concept of Ma and Maai in Zeami and Munenori Yagyu", Symposium "Proposing New Perspectives on "Intercorporeality"
from East-Asian Philosophical Viewpoint
3.学会等名
International Society of East Asian Philosophy, First International Conference
4.発表年
2019年
•

1.発表者名
河野哲也
2.発表標題
顔と身体を哲学はどう論じてきたか
3.学会等名
3 · 子安寺石 第5回顔・身体学領域会議(科研費補助金助成事業「新学術領域研究(研究領域提案型)」)
a 70 styles
4 . 発表年 2019年
2010-
1.発表者名
KONO, Tetsuya
2 7V ± 48 BB
2 . 発表標題 Skilled Performance of Distancing (Maʾai) and the Philosophy Kendo and Noh Play
and the following the art and the fill tooping holde and hell tay
3.学会等名
University of Wollongong Info/Liberal Arts Conference. Understanding and Explaining Skilled Performance: Looking Across
Traditions(招待講演) 4.発表年
4 . 光表年 2020年
1 . 発表者名
小手川正二郎
2.発表標題
2 .
3 . 学会等名
第4回顔・身体学領域会議(科研費補助金助成事業「新学術領域研究(研究領域提案型)」)
A - ※主任
4 . 発表年 2019年
1. 発表者名
國領佳樹
2 . 発表標題
2 : 光衣伝題 出来事/プロセスとしての知覚: メルロ=ポンティのホワイトヘッド
3 . 学会等名
第41回日本ホワイトヘッド・プロセス学会大会公開シンポジウム
4.発表年
2019年

1 . 発表者名 國領佳樹
2.発表標題
ベルクソン-平井氏への質問
3 . 学会等名 ワークショップ「汎心論を再起動する: ラッセル・ベルクソン・ホワイトヘッド」
4 . 発表年 2019年
1.発表者名
佐古仁志
2.発表標題
直接知覚と間接知覚の統合としてのパースの知覚論: 批判的常識主義の観点から
3 . 学会等名 日本記号学会第39回大会
4.発表年
2019年
1.発表者名 佐古仁志
在自仁心
2 . 発表標題 アブダクションとメタファー: 身体に根差した学習方法としての投射
3.学会等名
アメリカ哲学フォーラム第6回大会
4.発表年 2019年
1.発表者名 Sako, Satoshi
2.発表標題
Projection as a way of Embodied Learning: On Metaphor and Abduction
3.学会等名 科研費新学術領域「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築,顔と身体表現の比較現象学」自主ワークショップ"Radial Embodied Cognition"
4.発表年 2019年

1. 発表者名
河野哲也
2.発表標題
Trans-cultural phenomenology of race
Traile dartata. Photomonology of Table
3.学会等名
24th World Congress of Philosophy(国際学会)
4.発表年
2018年
1. 発表者名
河野哲也
2.発表標題
2.光衣标题 Construction of the Face Body studies in transcultural conditions
Construction of the race body Studies in transcurtural conditions
3.学会等名
KAL Workshop: Body matters, The Many faces of Embodied Cognition(国際学会)
4 . 発表年
2018年
1. 発表者名
河野哲也
2.発表標題
」・J・J・ギブソンの情報概念とその根本的プラグマティズムの含意
3・3・インフンの情報地部とこの地帯的フラブ・ディスムの自念
3 . 学会等名
ショーン・ギャラガー招聘シンポジウム『匿名の視線と自己の成立』(国際学会)
4. 発表年
2018年
1. 発表者名
河野哲也
2.発表標題
Phenomenology of Skilled Performance
Thenementary, or altitled fortermented
3 . 学会等名
日本現象学会第40回大会(招待講演)
4.発表年
2018年

1.発表者名
I.完表看名 河野哲也
2
2 . 発表標題 トランスカルチャー状況をめぐって
トノノスカルティー小派をめてって
3.学会等名
「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築: 多文化をつなぐ顔と身体表現」, 第3回公開シンポジウム
4.発表年
2018年
1. 発表者名
河野哲也
2 . 発表標題
身体性認知の新しい展開
3. 学会等名
第3回顔・身体学領域会議
4 . 発表年
2018年
1.発表者名
河野哲也
2.発表標題
現代における顔・身体の変容について
3 . 学会等名
っ、チェッカ 自主シンポジウム『トランスカルチャーとは何か? 心理学と哲学の協働』1 現代における顔身体の変容
日エフノホフノム 「フノスカルノド こは内ガ: 心理于こ日于の脚側。「 境代にのける族为件の交音
4.発表年
2019年
1. 発表者名 - 河野新典
河野哲也
2. 発表標題
What is Transculture?
3 . 学会等名
自主シンポジウム『トランスカルチャーとは何か? 心理学と哲学の協働』2 トランスカルチャーとは何か?
4.発表年
4 . 完衣牛 2019年
20.0

1. 発表者名
河野哲也
2 . 発表標題
インゴルドと「あいだ」
3.学会等名
科研費新学術領域「顔と身体表現の比較現象学」自主シンポジウム「インゴルドと「あいだ」のシンポジウム」
4.発表年
2019年
2010—
1.発表者名
Shojiro Kotegawa
,
2.発表標題
Phenomenology of "Yellow Race"
3 . 学会等名
24th World Congress of Philosophy(国際学会)
4.発表年
2018年
1 . 発表者名
Shojiro Kotegawa
Phenomenology of Masculinities: Can the Phenomenology of Masculinities Contribute to Feminism
g,
and the second s
3.学会等名
Nordic Society for Phenomenology(国際学会)
4.発表年
2018年
2010
1.発表者名
一个元代音
2.発表標題
<生成>へと到る旅路 哲学と心理学の<あいだ>のインゴルド
科研費新学術領域「顔と身体表現の比較現象学」自主シンポジウム「インゴルドと「あいだ」のシンポジウム」
4.発表年
2019年

1. 発表者名
<u>佐古仁志</u>
2 . 発表標題
批判的常識主義を媒介とした直接知覚と間接知覚の統合 生態学的知覚論をめざして
2
3.学会等名
日本生態心理学会第7回研究大会
<u></u> 4.発表年
1
2010-
1.発表者名
71 - W
2 . 発表標題
パースにおける学習理論とその展開
3 . 子云寺石 アメリカ哲学フォーラム第5回大会
アグリガ哲学フォーフム第5四人会
2018年
20.01
1.発表者名
佐古仁志
2.発表標題
パース的観点からの「自己制御」を通じた社会性の獲得について
3 : デムサロ 日本記号学会第38回大会
2018年
1.発表者名
國領佳樹
2.発表標題 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
前期メルロ=ポンティの超越論的プログラムにおける身体・知覚・主体
う・・ なら 第 5 回メルロ = ポンティ哲学研究会
4.発表年
2019年

1.発表者名
Eric Chelstrom
2.発表標題
Sartrean Collective Intentionality: Criticisms of the Contemporary Approach
ca. troui. co. to. troui. co. troui. co. troui.
3.学会等名
3 : 〒 公 守 口 科研費新学術領域「顔と身体表現の比較現象学」自主シンポジウム「トランスジェンダーの哲学&共同行為論」
竹町貝別子竹根以 解こ才 中代境の比較境象子 コロエノン かとりな 「 フンヘンエン ア のロチ 8 六回 1 河間 1
4.発表年
2019年
1.発表者名
Eric Chelstrom
2 . 発表標題
Unmasking Ourselves: The Disclosure of Gender Expectations in the Encounter with the Trans-Other
dimensional distributions and processes of contact Expectations in the Encounter with the Trans other
3.学会等名
自主シンポジウム『トランスカルチャーとは何か? 心理学と哲学の協働』2 トランスカルチャーとは何か?
A SVET
4. 発表年
2019年
1.発表者名
Tamsin Kimito
2 . 発表標題
Defining Transphobia
Det i i i i i i i i i i i i i i i i i i i
3.学会等名
科研費新学術領域「顔と身体表現の比較現象学」自主シンポジウム「トランスジェンダーの哲学&共同行為論」
. Water
4. 発表年
2019年
1.発表者名
Tamsin Kimito
2.発表標題
Hard Movements: A Phenomenology of the Body and Sexual Schemas in Transition
2 246/2017
3.学会等名
自主シンポジウム『トランスカルチャーとは何か? 心理学と哲学の協働』2 トランスカルチャーとは何か?
W + F
4 . 発表年
2019年

1.発表者名 Alia Al-Saji
2 . 発表標題 A Phenomenology of Cultural Racism
3 . 学会等名 科研費新学術領域「顔と身体表現の比較現象学」自主シンポジウム「差別と人種の現象学」
4 . 発表年 2018年
1 . 発表者名 Alia Al-Saji
2. 発表標題 The Racialization of Muslim Veils
3 . 学会等名 科研費新学術領域「顔と身体表現の比較現象学」ワークショップ「ムスリム女性のヴェールをめぐる学際研究」
4 . 発表年 2018年
1 . 発表者名 Helen Ngo
2 . 発表標題 Simulating the Lived Experience of Racism and Islamophobia: On 'Embodied Empathy' and Political Tourism
3.学会等名 科研費新学術領域「顔と身体表現の比較現象学」自主シンポジウム「差別と人種の現象学」
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 河野哲也
2.発表標題 倫理と人間の限界:ヌスバウムとの対話
3 . 学会等名 アメリカ哲学フォーラム第4回大会シンポジウム(招待講演)
4 . 発表年 2017年

1.発表者名 Kong Tataung
Kono, Tetsuya
2 . 発表標題
Theorising power, agency and voice and silence in dialogic practices
3.学会等名
The 17th Biennial conference of the International Society for Theoretical Psychology(国際学会)
4.発表年
2017年
2017
1.発表者名
Kono, Tetsuya
2. 発表標題
Transcendental Subjectivity as Actor network and the First Person Perspective
3 . 学会等名
日本現象学会第39回大会
4.発表年
2017年
1.発表者名
河野哲也
2.発表標題
全人の表現を 自然だけでも文化だけでもない脳
3.学会等名
日本科学哲学会第50回大会ワークショプ
4. 発表年
2017年
1. 発表者名
河野哲也
2.発表標題
離見の見と間合い
0 WAMA
3.学会等名 - 小周辺理事ンン・ポンプライアのしたことがありた故は会党、対理事中で声楽「女学体体は研究」してシュナリズ・、4277にかける第2は学の集
公開科研費シンポジウム『間とあいだの比較現象学』科研費助成事業「新学術領域研究」トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築(顔・魚体学)
築(顔・身体学) 4.発表年
4. 完衣牛 2018年
2010 "

4 改丰业权
1 . 発表者名 河野哲也
/") 차 다 변
2 . 発表標題
態(わざ)と音楽性
3 . 学会等名
公開科研費シンポジウム『間とあいだの比較現象学』科研費助成事業「新学術領域研究」トランスカルチャー状況下における顔身体学の構
築(顔・身体学)
4.発表年
2018年
1. 発表者名
河野哲也
2.発表標題
知覚に先んじるメタファー:ガストン・バシュラールの物質的想像力
2
3 . 学会等名 日本語用論学会メタファー研究会(招待講演)
ロ平田内間ナスクフノア「町九云(fultimiyy)
4.発表年
2018年
1. 発表者名
Kotegawa, Shojiro
2 . 発表標題
Z . 元权标题 To Have a Child and To Become a Parent
3.学会等名
Nordic Society for Phenomenology, Norwegian University of Science and Technology(国際学会)
A ジキケ
4.発表年
2017年
1.発表者名
Kotegawa, Shojiro
2.発表標題
How to Reconsider the Responsibility for Strangers from Levinas' Perspective
3 . 学会等名
Levinas on Socio-Political Responsibility and Beyond(国際学会)
(
4 . 発表年
2017年

1.発表者名 小手川正二郎
2 . 発表標題 人間主義と形而上学 人間性をめぐるハイデガーとレヴィナスの対決
3 . 学会等名 ハイデガーフォーラム 4 . 発表年
2017年
1.発表者名 小手川正二郎、國領佳樹
2.発表標題 顔身体の現象学 概要と展望
3 . 学会等名 公開シンポジウム「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築」(第2回)
4 . 発表年 2017年
1.発表者名 小手川正二郎
2.発表標題 「男らしさ」(masculinities)の現象学試論 「男らしさ」の現象学はフェミニズムに寄与しうるのか?
3 . 学会等名 フェミニズム研究会(招待講演)
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 岡嶋隆佑
2 . 発表標題 ベルクソン『物質と記憶』における「私の現在」の概念について
3 . 学会等名 日本現象学会第39回研究大会
4 . 発表年 2017年

1.発表者名 岡嶋隆佑
2 . 発表標題 視覚と空間--メルロ=ポンティによるベルクソン批判をめぐって
3 . 学会等名 第42回ベルクソン哲学研究会
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 佐古仁志
性点 L 心
2 . 発表標題 「投射」を手がかりにした「アブダクション」の分析と展開
3 . 学会等名 日本記号学会第37回大会
4.発表年
2017年
1.発表者名 佐古仁志
2.発表標題 パースにおける「意識」の分類とその現代的再構築
3 . 学会等名 アメリカ哲学フォーラム第4回大会
4.発表年 2017年
1. 発表者名
佐古仁志
2 . 発表標題 アフォーダンス学習の分析と展開:パースの観点から
,フォーテングチョッカ41 C1枚ml・ハーベッ既ぶから
3 . 学会等名 日本認知科学会 「身体・システム・文化」研究分科会ワークショップ 「知覚と行為に関する国際会議 第19回大会(ICPA19)」報告会
(招待講演) 4.発表年
2017年

1.発表者名
Sako, Satoshi
2 . 発表標題 Peirce's Taxonomy of Consciousness and Its Modern Reconstruction
refree 5 laxonomy of consciousness and its wodern reconstruction
3.学会等名
19th International Conference on Perception & Action (国際学会)
4 . 発表年 2017年
2011
1.発表者名
Sako, Satoshi
2.発表標題
2 . 完衣標題 The Analysis and Development of Learning Affordance from Peirce's Perspective
3
3.学会等名
The 17th Biennial Conference of The International Society for Theoretical Psychology(国際学会)
2017年
1 . 発表者名 國領佳樹
四公正则
2.発表標題
『知覚の現象学』と実在論ーメルロ=ポンティとアーロン・グールウィッチの隔たり
3.学会等名
第23回メルロ = ポンティ・サークル研究大会シンポジウム
4.発表年
2017年
1.発表者名
國領佳樹
2.発表標題
愛の現象学-『知覚の現象学』における情感的志向性について
3.学会等名
3 . 子云寺石 東北哲学会第67回大会シンポジウム(招待講演)
4 . 発表年 2017年
2011 11

1.発表者名 國領佳樹	
2.発表標題 グルーヴとは何か?聴覚と身体感覚のあいだ	
3.学会等名 公開科研費シンポジウム『間とあいだの比較現象学』科研費助成事業「新学術領域研究」トランスカルチャ 築(顔・身体学)	ー状況下における顔身体学の構
4 . 発表年 2018年	
〔図書〕 計22件	
1.著者名 河野 哲也	4.発行年 2021年
2.出版社 筑摩書房	5.総ページ数 ²²⁴
3.書名 問う方法・考える方法	
1 . 著者名 河野 哲也	4 . 発行年 2021年
2.出版社 河出書房新社	5.総ページ数 ²⁸⁸
3.書名 じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン 増補版	
1 . 著者名 河野哲也、伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留、一ノ瀬正樹、檜垣立哉、千葉雅也、清水晶子、安藤礼、中田考、王前、上原麻有子、朝倉友海、伊藤邦武、冲永宜司、大黒弘慈、久木田水生、中野裕考	4 . 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5.総ページ数 ³²⁰
3.書名 世界哲学史8(「第10章 現代のアフリカ哲学」(河野哲也))(pp.251-275)	

1.著者名 河野哲也、ミナタニアキ、安本志帆、高橋綾、松川えり、三浦隆宏、犬てつ(犬山×こども×大人×てつがく×対話)、ヤマダクミコ	4 . 発行年 2020年
2.出版社 Landschaft	5.総ページ数 ²⁶⁸
3.書名 こどもと大人のてつがくじかん てつがくするとはどういうことか?(「ファシリテーターに哲学の知識 はどれほど必要か?」(河野哲也))(pp.256-259)	
1 ***	4 整仁生
1.著者名 河野哲也監修、NHK Eテレ「Q~こどものための哲学」制作班、古沢 良太、tupera tupera	4 . 発行年 2020年
2.出版社 ほるぶ出版	5.総ページ数 64
3.書名 ふつうって どういうこと?	
1.著者名 河野哲也監修、NHK Eテレ「Q~こどものための哲学」制作班、古沢 良太、tupera tupera	4 . 発行年 2021年
2. 出版社 ほるぷ出版	5.総ページ数 ⁶⁴
3.書名 なんではだかは はずかしいの?	
1 . 著者名 河野哲也監修、NHK Eテレ「Q~こどものための哲学」制作班、古沢 良太、tupera tupera	4 . 発行年 2021年
2.出版社 ほるぶ出版	5.総ページ数 ⁶⁴
3 . 書名 なんでお母さんは けしょうをするの?	
	I

1 英名夕	1 4 整仁左
1.著者名 河野新州監修 NHK Fラル「೧~こどものための哲学・制作班 本沢 良大 tupera tupera	4.発行年 2021年
河野哲也監修、NHK Eテレ「Q~こどものための哲学」制作班、古沢 良太、tupera tupera 	2021+
2.出版社	5.総ページ数
ほるぶ出版	64
3 . 書名	
3 · 6 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
	Л
1.著者名	4.発行年
「	2021年
2 HJ4C+L	Γ 4W 6° 2.2 %Fr
2 . 出版社 東京大学出版会	5 . 総ページ数 464
米尔八子山似云	704
3 . 書名	
顔身体学ハンドブック	
	_
1.著者名	4.発行年
小手川 正二郎、稲原 美苗、川崎 唯史、中澤 瞳、宮原 優、山本 千晶、酒井 麻衣子、池田	2020年
喬、佐藤 靜、フィリップ・ヒューズ、古怒田 望人、藤高 和輝	
	5.総ページ数
ナカニシヤ出版	208
2 争々	
3.書名 フェミニスト現象党入明(「用だってつらい?」(川崎唯中・小千川正二郎)、「人種け方だするの	
フェミニスト現象学入門(「男だってつらい?」(川崎唯史・小手川正二郎)、「人種は存在するのか?」(池田喬・小手川正二郎))(pp.129-139, pp.142 - 154)	
7 - 3 (10 mile - 3 - 3 / 11 mile - Mr /) (kkr 150 100) kkr 152 104)	
1 英名4	4 25/E/F
│ 1 .著者名 │ 國領 佳樹、川口 茂雄、越門 勝彦、三宅 岳史	4 . 発行年 2020年
國保 住倒、川口 以继、赵门 防侈、二七 苗丈	2020
2. 出版社	5.総ページ数
ミネルヴァ書房	442
3 . 書名	
現代フランス哲学入門(「メルロ=ポンティ」(國領佳樹))(pp.152-157)	

1 . 著者名	4 . 発行年 2019年
/NET 口巴	2019 11
2.出版社	5.総ページ数
2 .	5 . 総ペーシ数 248
2 #4	
3 . 書名 人は語り続けるとき、考えていない	
人はいかいからこと、うんていない	
1 . 著者名	4 . 発行年
Chi-Ming Lam (ed.), Shiauping Tian, Chi-Ming Lam, Zhenyu Gao, Jessica Ching-Sze Wang, Peter	2019年
Mau-Hsiu Yang and Jane Parish Yang, Satoshi Higuchi and Laurance J. Splitter, Tetsuya Kono and Shogo Shimizu, Takara Dobashi	
2. 出版社	5.総ページ数
Rout Ledge	208
3 . 書名	
Philosophy for Children in Confucian Societies: In Theory and Practice "The Development of P4C in Japanese Society and the Challenges for Practitioners" (Tetsuya Kono and Shogo	
Shimizu) (pp.141-155)	
1.著者名	4.発行年
河野哲也監修、NHK Eテレ「Q~こどものための哲学」制作班、古沢 良太、tupera tupera	2020年
2. 出版社	5 . 総ページ数
ほるぶ出版	64
3 . 書名	
お金でほんとうに 幸せになれる?	
1.著者名	4.発行年
「・看有句 河野哲也監修、NHK Eテレ「Q~こどものための哲学」制作班、古沢 良太、tupera tupera	2020年
	·
2.出版社	 5.総ページ数
ほるぶ出版	64
3.書名	
そもそも自分らしさって なに?	

1 . 著者名 河野哲也監修、NHK Eテレ「Q~こどものための哲学」制作班、古沢 良太、tupera tupera	4 . 発行年 2020年
2 . 出版社 ほるぶ出版	5 . 総ページ数 ⁶⁴
3.書名 大人って どんな人?	
1 . 著者名 安孫子信編、法政大学江戸東京研究センター、星野勉、田中久文、橋本順光、衣笠正晃、ジャン=フィ リップ・ピエロン、チエリー・オケ、エリー・デューリング、河野哲也、福井恒明、クレリア・ゼルニッ ク、アンドレア・フロレス・ウルシマ、陣内秀信	4 . 発行年 2020年
2.出版社 法政大学出版局	5.総ページ数 ²⁹⁸
3.書名 風土(Fudo)から江戸東京へ(「荒野と名前のない海と:江戸東京の原意味」(河野哲也))(pp.225- 241)	
1.著者名 小手川 正二郎	4.発行年 2020年
2.出版社 トランスビュー	5 . 総ページ数 ²⁸⁰
3.書名 現実を解きほぐすための哲学	
1.著者名 Rozzi R, May RH Jr, Chapin FS III, Massardo F, Gavin M, Klaver I, Pauchard A, Nunez MA, Simberloff D, Kono, T.	4 . 発行年 2019年
2.出版社 Springer	5.総ページ数 481
3.書名 From biocultural homogenization to biocultural conservation. Ecology and ethics, Vol.3	

1. 著者名	4.発行年
檜垣 立哉、小泉 義之、合田 正人	2019年
2. 出版社	5.総ページ数
河出書房新社	512
3 . 書名	
ドゥルーズの21世紀	
1 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	4 25/=/ -
1 . 著者名 千葉雅也	4 . 発行年 2018年
未作じ	20104
2.出版社	5.総ページ数
2. 近版社 青土社	5 . 総ペーン数 256
HTH	
0. 34	
3.書名 思弁的実在論と現代について	
ぶかり実在調と境では、	
1. 著者名	4 . 発行年
松葉 祥一、本郷 均、廣瀬 浩司、國領佳樹	2018年
2. 出版社	5.総ページ数
法政大学出版局	430
3 . 書名	
メルロ=ポンティ読本	
C attach MK D.L. attach Mar. N	
〔産業財産権〕	
〔その他〕	
新学術領域研究 「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築:多文化をつなぐ顔と身体表現」	
http://kao-shintai.jp 顔と身体表現の比較現象学	
https://www2.rikkyo.ac.jp/web/panta-rhei/	
河野哲也の哲学・倫理学研究室	
https://www2.rikkyo.ac.jp/web/tetsuyakono/	

6 . 研究組織

	· WI / UNIT MAN		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	小手川 正二郎	國學院大學・文学部・准教授	
研究分担者	(Kotegwa Shojiro)		
	(30728142)	(32614)	

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) 所属研究機関・部局・職 (機関番号) 國領 佳樹 研究協力者 小谷 弥生 研究協力者 (Kotani Yayoi) A (Kotani Yayoi)	
研究協力者 (Kokuryo Yoshiki) 小谷 弥生	
小谷。弥生	
者	
佐古 仁志 東京交通短期大学・運輸科・講師	
研究協力者 (Sako satoshi)	
(80713172) (42643)	
牧野・遼作 早稲田大学・人間科学学術院・准教授	
研究協力者	
(10780637) (32689)	
岡嶋 隆佑 新潟大学・人文社会科学系・准教授	
研究 協力者	
(20889365) (13101)	

7 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計10件

国際研究集会 International Symposium: Performing Self and Playing with Otherness: Clothing and Costuming under Transcultural Conditions, Research Center for Society an Culture	開催年 2020年 ~ 2020年
国際研究集会	開催年
顔身体科研国際シンポジウム「ミックスレイスの顔身体表象」	2020年 ~ 2020年
国際研究集会	開催年
Kyle Shuttleworth著「The History and Ethics of Authenticity」合評会	2021年~2021年
国際研究集会	開催年
Radial Embodied Cognition	2019年 ~ 2019年
国際研究集会 第24回日本顔学会大会公開サテライトシンポジウム 「顔の科学: 内側から見た顔 (Science of Face: view from the inside out)」	開催年 2019年~2019年
国際研究集会	開催年
KAL Workshop: Body matters, The Many faces of Embodied Cognition	2018年 ~ 2018年
国際研究集会	開催年
シンポジウム「差別と人種の現象学」	2018年 ~ 2018年
国際研究集会	開催年
ワークショップ「ムスリム女性のヴェールをめぐる学際研究」	2018年 ~ 2018年
国際研究集会 What is Transculture? "科研費新学術領域「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築」自主シンポジウム『トランスカルチャーとは何か? 心理学と哲学の協働』(2:トランスカルチャーとは何か?)	開催年 2019年 ~ 2019年
国際研究集会 公開科研費シンポジウム『間とあいだの比較現象学』科研費助成事業「新学術領域研究」 トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築(顔・身体学)計画班「顔と身体表現 の比較現象学」	開催年 2018年 ~ 2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------